



一隅を照らす運動総本部だより
No. 62



一隅を照らす運動ホームページアドレス
<https://ichigu.net>



第二十回

心のつどい in 比叡山

十一月四日 比叡山延暦寺

第二十回「心のつどい in 比叡山」（一隅を照らす運動総本部主催）を比叡山延暦寺で開催。一般公募で集まった男女二十四名が参加した。

本年も昨年同様、新型コロナウイルスの影響を考慮し、例年実施していた宿泊を控えて開催した。

開講式では、竹内純照一隅を照らす運動総本部長より挨拶があり、続いて日程説明や注意事項等の説明の後、研修会がはじまった。



椿堂で説明を受ける参加者たち

最初は、初めて堂内とご本尊の千手観音像が特別公開されている西塔にある椿堂へ向かった。ここは聖徳太子が比叡山に登られた時

に使った椿の杖が地に挿されたまま残され、やがて芽を出し大きく育ったという伝説に由来する場所で、参加者一同は熱心に説明に耳を傾けていた。

続いて、同じく西塔にある常行堂にて坐禅止観を行った。普段は入ることのできない場所での坐禅ということもあり、参加者は貴重な体験に緊張した面持ちで取り組んでいた。

午後からは、東塔にある大書院を見学した。こちらも普段は一般公開しておらず、大書院内を丁寧な説明を受けながら見学し、参加者は充実した時間を過ごすことができた。その後は、開館三十周年を記念した特別展「比叡の霊宝」が開催されていた国宝



大書院前での記念撮影

殿の見学を行い、全日程を終了した。研修を終えた参加者たちは「次回には知人も誘って参加したい」「大変貴重な時間を過ごせた」「伝教

大師や、比叡山の奥深さを改めて感じた」と感想を述べていた。

※椿堂の特別公開、国宝殿の特別展はすでに終了しています。

第三十七回

全国一斉托鉢

令和四年十二月一日、第三十七回全国一斉托鉢が開始された。十二月の「地球救援募金強化月間」中は各教区本部を中心に戸別托鉢や街頭托鉢が展開され、師走の恒例行事となっている。各教区それぞれの地域情勢に合わせて実施されている。本年も多くの方の協力をいただき令和五年一月十八日現在で三十八会場の実施報告があった。全国での募金総額は八百八十一万八千八百三十八円で、これらの浄財から地域社会福祉向上のために地元の社会福祉協議会やNHKの歳末たすけあいなどに届けられたほか、一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」に五百五万四千五百九十三円が寄託された。

各地の様相

(令和五年一月十八日までに各教区より提出された報告書の内容を掲載)

延暦寺一山



令和四年十二月一日、比叡山麓の大津市坂本地区一帯で行われ、今回で三十七回目を迎えた全国一斉托鉢には、延暦寺一山住職や職員、天台宗務庁の役職員、総勢約百名が参加した。

午前九時より、法螺貝の音を合図に生源寺を出発した一行は、天台座主大樹孝啓殿下を先頭に「造り道」を托鉢行脚。その後、坂本界隈の戸別托鉢を行い、多くの浄財が寄せられた。また、天台宗務庁の役職員と延暦寺一山寺庭婦人会が、JR比叡山坂本駅と京阪坂本比叡山口駅にて街頭募金を実施した。なお、当日寄せられた浄財は歳末

たすけあい義援金と海外たすけあい義援金に寄託された。

滋賀教区本部

十二月四日、湖西部聖衆来迎寺・法光寺檀信徒宅にて総勢二十八名が戸別托鉢を実施。当日は、八班に分かれて約五十軒のお宅を回った。事前に住職方より地域にお声かけをし、諸準備を念入りに行っていたため、スムーズに実施することができた。寄せられた浄財は、地球救済事務局に十七万八千円を寄託。

京都教区本部

十二月三日、眞正極樂寺境内にて総勢十三名が街頭托鉢を実施。本年は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、例年の四条河原町での街頭托鉢を中止し、境内にて参拝者を対象として実施した。紅葉シーズンの終わりが近く、十一月中程の参拝客はみられなかったが、大勢の方から募金をいただいた。寄せられた浄財は、地球救済事務局に二十七万三千円を寄託。

兵庫教区本部

第一部では十二月一日、遍照院および教信寺檀家宅にて総勢二十五名が戸別托鉢を実施。二組に分かれて、錫杖等の鳴り

物を使いながら、

般若心經と祈願文をお唱えしてまわった。事前に声をかけてい

たこともあり、寺院にも浄財を持って来られる方が多くみられた。「丁寧にお経をあげていただいた」と喜びの声をいただいた。寄せられた浄財は、地球救済事務局に十三万二千五百三十四円を寄託。

第二部では十二月三日、眞如院および観明院檀中地域にて総勢二十三名が戸別托鉢を実施。

先導役として会場寺院総代五名が参加。六班に分かれて三年ぶりとなる戸別托鉢が実施できた。各家とも協力的でスムーズ



にまわる事ができた。寄せられた浄財は、丹波篠山市社会福祉協議会に八万円、加東市社会福祉協議会に二万円、三田市社会福祉協議会に二万円、地球救援事務局に七万八千七百十八円を寄託。

・第三部では十二月一日、八葉寺檀徒地域にて総勢六十四名が戸別托鉢を実施。参加寺院住職と檀信徒が二十二班に分かれて地域をまわった。とても協力的で手を合わせて、読経を熱心に聴かれる信者さんが多く見受けられた。寄せられた浄財は、姫路市社会福祉協議会に十一万五千元、地球救援事務局に十一万五千元を寄託。



・第四部では十二月一日、姫路駅前から姫路城前までの間にて総勢九名が街頭募金を実施。姫路駅前・山陽百貨店前・姫路城前の複数の場所において移動しながら街頭托鉢を実施。般若心経を唱えながらリーフレットやティッシュを配布した。何人もの方が足を止めてお布施をしてく

ださった。また、募金のみではなく食べ物やお茶などのお布施もしてくださり、温かい気持ちで実施できた。寄せられた浄財は、地球救援事務局に七万円を寄託。

・第五部では十二月一日、美方郡新温泉町湯、歌長、細田地区にて総勢十六名が戸別托鉢を実施。当該地区では、托鉢が地区の風物詩となっているので、例年通り浄財をいただいた。当日は雨の中にも関わらず、お待ちいただく人も多くみられた。寄せられた浄財は、新温泉町社会福祉協議会に九万五千五百七十九円、地球救援事務局に東日本大震災義援金として九万六千元を寄託。



・第六部では十二月三日、常勝寺檀中にて部内寺院住職、副住職、寺族、檀信徒らに参加し、戸別托鉢を実施。各寺院総代等、多



くの方に参加をしていただく予定であったが、コロナ感染予防の観点から人数を減らしての開催となった。早朝より托鉢を開始したが、募金にもご協力だけだった。寄せられた浄財は、丹波市社会福祉協議会に三万六千四百二十円、地球救援事務局に三万六千四百二十円を寄託。

岡山教区本部

・第一部より三万円を地球救援事務局に寄託。

・第二部より十二万一千六百円を第二部災害基金へ、九万一千七百八十八円を地球救援事務局に寄託。

・第四部では部内各寺院より寄せられた浄財、五万円を玉島社会福祉協議会、十九万円を地球救援事務局に寄託。

・第五部では寄せられた浄財、三万円を山陽新聞社社会事業団に寄託。
・第六部より五万円を地球救援事務局に寄託。



山陰教区本部

・十二月一日、第一部観照院にて総勢二十

九名が戸別托鉢を実施。およそ一ヶ月前に觀照院檀徒総代に托鉢の実施について説明をし、事前に案内文書と浄財袋を檀信徒各家、約百二十軒に配布した。当日は雨の中、僧侶一名、檀信徒二名程度のグループで各家をまわって読経し、浄財をお預かりして、ポケットティッシュとリーフレットをお渡しした。協力者の方々は、快く浄財を寄付された。寄せられた浄財は、岩美町社会福祉協議会に五万円、教区仏教青年会に一万円、地球救援事務局に六万七千五百円を寄託。

また、十二月十一日には三朝温泉街にて総勢十四名が戸別托鉢を実施。地域の方々にご理解をいただく中、各家・旅館・ホテル・商店をまわり戸別托鉢を行った。寄せられた浄財は、三朝町社会福祉協議会に十万六千九百円、地球救援事務局に八万四千円を寄託。

第二部では、本年も新型コロナウイルス感染症による状況を鑑み、各寺院にて募金を実施した。地球救援事務局に六万九千



八百十九円を寄託。

四国教区本部

第二部では十二月一日、松山市内複数ヶ所において総勢十八名が街頭托鉢を実施。コロナ禍であったため、一ヶ所に集中せず

に部内各寺院近辺にて実施した。寄せられた浄財は、地球救援事務局に三万円を寄託。



九州西教区本部

筑前部では部内寺院より寄せられた浄財、二万三千五百円を地球救援事務局に寄託。柳川部では部内寺院より寄せられた浄財、一万三百円を地球救援事務局に寄託。

久留米部では部内寺院より寄せられた浄財、四万三千円を地球救援事務局に寄託。

三岐教区本部

十一月二十二日、岐阜三部美江寺において、総勢四十四名が托鉢に参加した。コロナ禍のため、例年のような戸別托鉢は行わず、参加された檀信徒からの浄財や各寺院

に集まった募金を持ち寄った。地球救援事務局に十五万九千三百七十八万円を寄託。

東海教区本部

十二月二十一日、覚王山日泰寺境内にて総勢五名が托鉢を実施。歳末たす



けあい募金、地球救援募金、ウクライナ難民募金の呼びかけも実施した。呼びかけに応じて、ご協力してくださる方が多く、日本人の気持ちの温かさを感じた。寄せられた浄財は、中日新聞に五万円、天台宗仏教青年連盟に三万五千七百二十七円、地球救援事務局に五万円を寄託。

北陸教区

十一月二十七日、北越部西得寺周辺において、総勢十八名が戸別托鉢を実施。福井県坂井市丸岡町谷町商店街を歩き、店舗一軒一軒の前に立ち、戸別托鉢を行った。また、商店街の托鉢を終えた後は、西得寺檀信徒の家をまわった。店舗をまわった時には、店の前まで店主が出てきてくださり、

浄財を募金箱に収めてくださった。檀信徒の方方も戸口に出て、「お疲れ様」と声をかけてくださった。寄せられた浄財は、地球救援事務局に十五万九千二百四十円を寄託。



信越教区本部

十二月一日、善光寺仁王門周辺にて総勢九名が街頭托鉢を実施。寒い中での実施となり、人の通りは少なかったが、労いのお言葉を多数頂戴し、充実感を持つことができた。外国人観光客も散見でき、募金に協力してくださった。依然としてコロナ禍であったため、消毒液の設置やマスク着用の徹底、大きな声での呼びかけを慎重に、参加人数を制限するなど感染対



策に配慮した。寄せられた浄財は、地球救援事務局に四万四千円を寄託。

神奈川教区本部

十二月二日、J R川崎駅銀柳街およびJ R平塚駅北口において、総勢三十四名が街頭募金を実施。両実施場所では、七〇八名六組に分かれて幟旗を掲示し、リーフレットやティッシュを配布しながら、募金への協力を呼びかけた。通行の方々に多くの浄財を頂戴し、また教区内寺院からもそれぞれ寺院で集められた募金を持参していただいた。寄せられた浄財は、



神奈川県社会福祉協議会に十万円、教区仏教青年会救援募金に十万円、地球救援事務局に三十万円を寄託。

東京教区本部

教区仏教青年会では十一月十八日、瀧泉寺本堂前にて総勢三名で托鉢を実施。曇り空ではあったが寒くはなく、参拝の人も多かった。緑日のご祈祷の為に参拝に来て

いた方々は、托鉢に気付くと足を止めて募金に協力してくださった。寄せられた浄財は、地球救援事務局に九万二千二百六円を寄託。

また、教区本部托鉢では十二月十日、浅草寺宝蔵門前にて総勢二十七名が街頭募金を実施。当日は晴天に恵まれ、大勢の参拝者が行き交う中での募金活動であったが、コロナ禍を鑑み従来のような大きな声を出さず、メガホンマイクを活用した。参拝者の半数近くが海外からの観光客であったため、英語での呼びかけを行うと協力していただけた。また、しょうごうさんが登場すると反応もよく、人気であった。寄せられた浄財は、あしなが育英会に十万円、港区社会福祉協議会に二万二千五百三十三円、地球救援事務局に十万円を寄託。

北総教区本部

北総教区本部では、コロナ禍の状況を鑑み、教区内各寺院それぞれに募金箱の設置を依頼し、八月一日から十二月一日の四ヶ月間で浄財を募った。お盆の時期やお彼岸に寺院を訪れた檀信徒から多くの協力があつた。寄せられた浄財は、地球救援事務局に三十四万八千八百六十九円を寄託。

南総教区本部

十一月二十四日、第四部薬師寺において霜月会に合わせて募金を実施した。参加者は住職、檀信徒総勢五十六名であった。浄財の募金は快くご協力いただいた。寄せられた浄財は、タイ・プラティープ財団に二万円、地球救援事務局に一万六千九百二円を寄託。

埼玉教区本部

十二月一日、川越駅周辺並びに第二部喜多院境内において、総勢二十七名が街頭募金を実施。寒い日で平日ということもあり、駅周辺の人々は足早であった。また、喜多院境内も人はまばらであったが、どちらも協力してくれた方々はとて丁寧な方ばかりであった。天台仏教青年連盟に十四万五千七十円、地球救援事務局に三十万円を寄託。



群馬教区本部

・南前橋部では十二月三日、禪養寺にて総勢九十二名が戸別托鉢を実施。感染対策

として、一同が会する開会行事を省略して行った。寺院の役員中心の運営であったが、事前の準備を行い、つつが無く托鉢を終えられた。募金に協力いただいた方々は、僧侶の読経を真摯な態度で聞き、感謝の気持ちで浄財を喜捨する様子がかがえた。寄せられた浄財は、群馬教区本部に四十万円、地球救援事務局に十八万六千七百七十三円を寄託。

・北前橋部では十二月三日、総勢十名が参加し、大興寺檀信徒役員宅を訪問、事前に集められた浄財をお預かりした。コロナ禍の感染状況を鑑みて、戸別・街頭托鉢は実施できなかった。寄せられた浄財は、上毛新聞社に五万六千三百七十一円、群馬教区本部に五万円、地球救援事務局に五万円を寄託。

・西前橋部では十二月一日、林倉寺地区にて総勢三十四名が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、上毛新聞社に三万円、仏教保護会に五万円、前橋市社会福祉協議会に五万円、群馬教区本部に十万円、地球救援事務局に十万円を寄託。

・高崎市部では十二月三日、高崎市市街地にて総勢二十一名が街頭托鉢を実施。群馬教区本部に三万円、地球救援事務局に三万円を寄託。

・富岡部では例年実施の托鉢は中止となっ

たため、各寺院より浄財を集める事となった。寄せられた浄財は、社会福祉協議会に十四万五千円、群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に二万円を寄託。

・多野部では十一月六日、金光寺にて戸別托鉢を実施。群馬教区本部に一万八千円、地球救援事務局に一万八千円を寄託。

・北群馬部では十二月四日、渋川市市内・眞光寺にて総勢五十名が街頭募金を実施。全国一斉托鉢の趣旨をご理解いただき、檀信徒方はもちろん、街頭の方々からもたくさん浄財をお預かりした。コロナ禍のためか街頭での募金件数は例年より少なかった。寄せられた浄財は、渋川市社会福祉協議会に十万円、上毛新聞社に十万円、群馬教区本部に六万円、地球救援事務局に五万円を寄託。



・沼田部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に一万五千円、地球救援事務局に一万円を寄託。

・桐生部では十二月十一日、JR桐生駅北

口付近にて総勢十三名が戸別托鉢を実施。まだまだコロナ禍のため、戸別の訪問はせずに歩くだけの托鉢となったが、行き交う方々と挨拶等の交流ができ、好印象の中で実践できた。寄せられた浄財は、群馬教区本部に六万円、地球救援事務局に四万円を寄託。

・東前橋部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に六万円、地球救援事務局に六万円を寄託。

・伊勢崎部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に十四万八千三百円、地球救援事務局に二十万円を寄託。
 ・世良田部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に二万円を寄託。

・下仁田部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に一万円を寄託。

・西群馬部では十二月一日、部内各寺院にて部内住職が戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に一万円を寄託。

・十二月一日、群馬教区心月院にて住職が

戸別托鉢を実施。寄せられた浄財は、群馬教区本部に五千元、地球救援事務局に五千元を寄託。

茨城教区本部

十二月三日、第二部千光寺において総勢十二名が戸別托鉢を実施。家々を托鉢させていただき、檀信徒の皆さまからも快く募金をしていただいた。寄せられた浄財は、地球救援事務局に十四万三千四百円を寄託。

栃木教区本部

十二月一日、JR宇都宮駅西口バスロータリー内において総勢三十九名が街頭募金を実施。例年通りの募金活動を実施することができた。マスクの着用、拡声器の使用など、コロナ禍であることを意識し、迷惑をかけないよう心がけた。寒



日だった為か、好意的な印象を持っていただけのように感じた。寄せられた浄財は、地球救援事務局に六万八千六百六十一円を寄託。

福島教区本部

十二月一日、福島教区宗務所周辺にて総勢三十四名が街頭募金を実施。コロナ禍の影響もあり、人通りは少なく天台宗の活動をアピールすることに重きをおいて托鉢を行った。郡山市社会福祉協議会に二万五千三百三十円、地球救援事務局に三万八千四百五十円を寄託。



陸奥教区本部

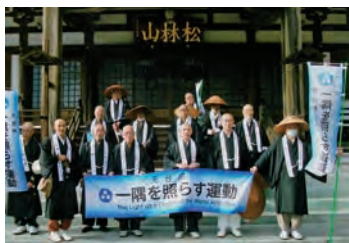
十一月二十六日、第一部興福寺にて総勢四十六名が戸別托鉢を実施。当日は、午後二時に参集。青森・岩手・宮城各県より二十九名の僧侶が参加した。本堂にて法楽後、各班に分かれて戸別托鉢を行った。班編成は、僧侶二〜三名が一班となる、計十一班で行われ、各戸において托鉢の趣



旨を説明し、浄財をいただき、舍利札文等を読誦。家内安全を祈願した。事前に訪問先の檀徒へ告知を行っていたため、戸別訪問時の対応もスムーズであった。寄せられた浄財は、ウクライナ人道危機救援募金に十万七千七百三十六円を寄託。

山形教区本部

十一月二十日、屋代部薬師寺及び市内にて総勢二十名が街頭募金・戸別托鉢を実施。コロナウイルス感染症第八波の兆しが出始めた中、担当部と有志僧侶により数年ぶりとなる戸別托鉢が実施された。感染対策として、玄関の外で浄財を授受することを事前に通知し、マスク姿で強風の中、笠を飛ばされながらの行となった。事前通達をしていたことから、当日留守のご家庭からは事前に各寺院に浄財が寄せられるなど、寺院と地元との結びつきを感じ取れる場面もあった。一方で、「托鉢」自体を知らない世代の家族もあり、托鉢の布教と行事の連絡手段の多様化を課題と感じた。寄せられた浄財は、山新愛の事業団に八万九千九百四十九円、地球



救援事務局に十二万円を寄託。

一隅を照らす運動推進大会

○茨城大会

茨城教区本部（中村純亮教区本部長）では、令和四年十月一日に茨城教区第五部妙香寺を会場に天台宗一隅を照らす運動推進大会を開催し、六十六名の参加者が集まった。

はじめに中村教区本部長導師のもと、法楽を行った。

その後の講演では千日回峰行者藤波源信師による「日々の生活の修行」と題した講演が行われた。講演の中で、「修行は厳しいイメージを持たれるが、皆さんの日々の生活と何も変わらない。仏様に近づくには日々の生活が重要である」とお話され、参加者は興味深く聞き入っていた。

○九州西大会

九州西教区本部（嘉瀬慶文教区本部長）では、令和四年十月二十三日に長崎県新上五島町の伝教大師像前並びに旧上荒川小学校体育館を会場に一隅を照らす運動九州西大会を開催し、二百名が参加された。また、大会の様子をYouTubeにて配信された。

はじめに嘉瀬教区本部長導師のもと、新上五島町荒川郷に建立された伝教大師像の三周年記念法要が厳修された。

次に、旧上荒川小学校体育館へ移動し、一隅を照らす運動九州西大会が開催された。

宗務総長代理として岩田真亮教学部長、竹内純照一隅を照らす運動総本部長より挨拶がなされた後、九州西教区清水寺住職、鍋島隆啓師による「生きがいある人生〜一隅を照らす生き方」と題した講演が行われた。鍋島師は「一隅を照らす生き方から、生きがいある人生が生まれてくる。生きがいのある人生は、幸せな人生である」と述べられ、参加者一同は貴重な内容に聞き入っていた。

最後に参加者と記念撮影を行い、閉会となった。



○東海大会

東海教区本部（山田亮盛教区本部長）では、令和四年十月二十三日に静岡県焼津市の法華寺を会場に、一隅を照らす運動第六十一回天台宗東海教区第八部檀信徒会を開催し、四十五名の参加者が集まった。



コロナ禍により時間の短縮を行っての開催となった。法楽を行い、続けて一隅を照らす運動東海教区事務局長中根光龍師、東海教区本部長山田亮盛師による挨拶が行われた。

その後、東海教区高田寺副住職の柴田憲良師による「すこしだけひとのために生きてみよう」と題した講演が行われ大会は終了した。

○三岐大会

三岐教区本部（森喜良教区本部長）では、令和四年十一月二十二日に岐阜県岐阜市にある美江寺を会場に天台宗一隅を照らす運動推進大会を開催し、四十四名の参加者が集まった。

はじめに森教

区本部長導師のもと、伝教大師一千二百年大遠忌法要を行った。つづいて森教区本部長、竹内純照一隅を照らす運動総本部長が挨拶を行った。

その後、竹内一隅部長による「伝教大師と一隅を照らす運動」と題した講演が行われ、参加者は興味深く聞き入っていた。



一隅を照らす運動ニュース

◎比叡山中学校が募金寄託

令和四年九月二十八日、比叡山中学校ボランティア委員会委員長が来庁し、地球救援協力金として一万四千円を竹内純照一隅を照らす運動総本部長に寄託した。この度の募金は九月二十二日、同



校文化祭でボランティア委員会がバザーを開催された際の収益で、バザーでは同校の生徒が持ち寄った品物を販売している。同校ボランティア委員会はその他にも、福祉施設への雑巾の贈呈、坂本周辺の清掃活動など学校内外で様々な活動に取り組んでいる。

◎PMS・比叡山高校オンライン日本語講座を実施

令和四年十一月九日、比叡山高等学校とインド国禪定林住職サンガトナ・法天・マナケ師が代表を務める、パンニャ・メッタ子どもの家をオンラインで繋ぎ、国際交流を深める、日本語講座の第一回目が実施された。

この日本語講座は、令和二年五月頃より約二年弱の期間、青森県内の中学・高等学校との間で実施されていた。

当日は、比叡山高校の一・二年生男女六名、インドからは高校生・大学生の男女五名が日本語と英語を交えながら、互いに自己紹介と質疑応



答を行った。初回ということもあり、互いに緊張した面持ちであったが、「日本の季節は?」、「好きな日本語は?」など、交流を通して、少しずつ打ち解けていた様子であった。

◎スタディーツアーオンライン交流を開催

一隅を照らす運動総本部では、平成十八年度より比叡山高等学校と駒込高等学校の生徒を伴って、タイ王国（ドゥアン・プラティープ財団）を訪問するスタディーツアーを実施してきた。このスタディーツアーは過去四回実施されており、「一隅を照らす」人材を育成することを目的に、「アジアの貧困地域の現状に触れ、日本との生活環境の違いや学習しただけでは得ることのできない経験を積み、見聞を広めてもらうために行ってきた事業である。



令和四年度も新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、現地研修が実施出来ない状況となったことから、昨年度に引き続き、オンライン交流を開催する運びとなった。本年は令和



スタディーツアーオンライン交流を開催した。

この度のオンライン交流は、日本とタイの文化をそれぞれ紹介することをメインテーマとして、資料を作成してもらい、お互いに発表し合った。駒込高校からは四名の生徒が順番に日本のアニメや茶道・華道、そしてお辞儀についての紹介をイラストやアニメーション資料を用いて、説明がなされた。また、チユンポーン校からは、日常生活やタイの風習などを代表の五名の生徒が順番に説明する形をとられた。お互いの発表を聞いた後、質疑応答としてさらに交流をはかってもらった。オンライン交流時は、サッカーW杯が開催中と言うこともあり、共通の話題を通して和やかな雰囲気の中、親交が深められ有意義な時間となった。

四年十一月二十五日、日本時間午後四時（タイ現地時間午後二時）より天台宗務庁、駒込高等学校、タイ国ドゥアン・プラティープ財団、「生き直しの学校」チユンポーン校の四カ所をオンラインで繋ぎ、「一隅を照らす運動」

◎「歳末たすけあい義援金」及び「海外たすけあい義援金」へ寄託

令和四年十二月五日、総本部は「歳末たすけあい」と「海外たすけあい」へ義援金を寄託した。

NHK大津放送局から手島一宏局長、日本赤十字社滋賀県支部から西出佳弘事務局長、社会福祉法人滋賀県共同募金会から森尚一常務理事・事務局長に来庁いただき、一隅を照らす運動水尾寂芳副理事長、同運動理事長代理・小林祖承理事からそれぞれ目録が手渡された。

歳末たすけあいには、十二月一日に比叡山山麓本地区で行われた「天台宗全国一斉托鉢」戸別托鉢にて寄せられた浄財六十四万一千八百四十二円。

海外たすけあいには、地球救援事務局から五十万円がそれぞれ寄託された。

また、寄託式には比叡山幼稚園から代表して園児二名と保護者二名も出席し、比叡山幼稚園の



有志による浄財が園児たちから手島局長に手渡された。

「歳末たすけあい」「海外たすけあい」は国内外の支援の必要な方々のために役立てられる。

◎百萬巻写経を奉納



令和四年十二月十五日、比叡山延暦寺の法華総持院東塔へ百萬巻写経の奉納をした。

奉安されたお写経は、一隅を照らす運動で「百萬巻写経」

推進しているもので、平成二十八年から令和三年に寄せられた一万三千四百二十九巻となった。

一隅を照らす運動では、心のとらわれを和らげ、自己を謙虚に見つめ直し、心身のバランスを保つための実践として「お写経」をおすすしめし、「百萬巻写経運動」を引き続き、推進している。

◎三千院門跡が浄財を寄託

令和五年一月六日、三千院門跡の穴穂行



で、令和四年十二月十八日に実施された、歳末の恒例行事である「托鉢寒行」で集まったもので、地球救済事務局の様々な救援活動に役立てられる。

◎叡山学院が托鉢浄財を寄託

令和五年一月三十日、叡山学院生二名(佐藤正仁さん総合

仁執事長が天台宗務庁に来庁し、一隅を照らす運動総本部へ六十六万二千六百九十四円の浄財が寄託された。

この浄財は、京都市左京区大原の三千院一帯



叡山学院生で組織された「玉泉会」主催の実践仏教の一環で「叡山学院寒行托鉢」として行われている。コロナ禍を鑑み、戸別托鉢は取りやめ、学生と職員合わせて二十四名が浜大津商店街や京阪びわ湖浜大津駅、JR大津駅に立ち街頭募金を実施。四万二十七円の浄財が寄せられた。

◎「一隅を照らす運動」理事会を開催

令和五年一月三十一日、天台宗務庁(滋賀県大津市)に

おいて令和四年度第二回「一隅を照らす運動」理事会が開催された。本理事会において、令和五年度「一隅を照らす運動」の事業計画、各会計の予算等が審

議・承認された。

また令和五年度より実施される「支部活動奨励金制度」や、「一隅を照らす運動」の今後の発展について活発な意見交換が行われた。



藤正仁さん総合学科三年、西川実良さん研究学科一年)が来庁し、令和五年一月十九日に行った托鉢で集まった浄財を一隅を照らす運動総本部に寄託した。

この托鉢は、